

令和 6 年度 第 1 回豊川市環境審議会 議事録

日時：令和 6 年 7 月 2 6 日（金）

午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分

場所：豊川市役所 議会協議会室

■出席者

（委 員）

藤田 佳久 （愛知大学 名誉教授）
大門 裕之 （国立大学法人豊橋技術科学大学 教授）
加藤 勝敏 （浜松学院大学 教授）
田中 みや子 （愛知県地域環境保全委員 代表）
石原 勝好 （豊川商工会議所総務運営委員会 副委員長）
石黒 亜紀 （一般社団法人豊川市薬剤師会 理事）
安藤 和史 （豊川市連区長会 元理事）
溝口 隆文 （ひまわり農業協同組合 総合企画部長）
浜口 比呂子 （エコ☆はじめの一步 役員）
西野 正洋 （東三河総局県民環境部環境保全課 課長）
菅沼 由貴子 （豊川市教育委員会 教育委員）

（事務局）

環境政策監	木和田 恵
産業環境部次長	大澤 潤一
環境課課長	安藤 清
清掃事業課主幹	三浦 裕一郎
環境課課長補佐	加藤 員祥
環境課環境政策係長	皆川 恭子
委託事業者（2 名）	

■議 題

（1）豊川市環境基本計画 2 0 2 0 中間見直しについて

■会議内容

1 あいさつ

竹本市長よりあいさつ
各委員自己紹介
事務局紹介

2 会議の成立について

委員 1 3 名中、1 1 名の委員が出席しているため、豊川市環境基本条例第 2 7 条第 2 項

に規定する定足数を満たし、審議会が成立しましたことを事務局より報告。

3 議題

(1) 豊川市環境基本計画2020中間見直しについて

①計画改定のスケジュールについて事務局から説明

②中間見直し資料の事前質問

(2名から質問があり委託事業者資料に沿って回答内容を説明)

(委員)

中間見直しの事前質問でAIについての質問をしたのは私です。

浜松学院大学でも「まちづくりAI」の活用を考えている先生がいるなど、現実の社会においてAIの活用が進んでいる状況があります。環境の分野でも、環境づくりの取り組みと合わせて、AI人材の育成などをされてはどうでしょうか。環境に関する住民からの質問についてAIで対応するシステムなど、AI導入を進めてはどうでしょうか。また、AIではありませんが、4年前に日本気象協会が福岡県で気候と商品の販売量のシミュレーションと生産量の調整により、飲食店等での廃棄物の量を2割程度削減したという事例もあります。こうした新技術の活用に関する視点を入れていただきたいと思います。例えば、山形県では経済界主導でAI人材を育成するために、高校を超えたAI部を設けています。

(事務局)

AIについては、豊川市では、ごみの分別のチャットボットを作成しています。また、ご質問の主題であるAIを脱炭素や生物多様性などの環境の課題と組み合わせて、取組を進めていける人材育成については、施策のキーワードとして考慮したいと思います。所管課との調整のうえで、次の審議会でお示ししたいと思います。

(委員)

私は東三河地域で、20年かからずに20mまで育ち、森林吸収が期待できる早生樹の植林を行い、里山の再生などを行っています。参考資料の1で、森林面積の指標の評価が二重丸となっているのですが、これは現状森林がこれだけあるということで、手つかずのまま、伐採は行われていないので良いという理解でよいのでしょうか。東三河では、新城から豊川にかけて豊富な森林資源があります。現状維持ではなく、一部を伐採して、植林をして、伐採した木をバイオマスとして活用して、地域で循環させていくと、カーボンニュートラルにもつながるので、バイオマスの活用についても計画に盛り込んでいただきたいと思います。

(事務局)

森林による二酸化炭素吸収をうまく機能させるための間伐等の森林管理や伐採から得られた木質バイオマスの活用などについて、1つのテーマとして施策の中に組み込む必要があると考えます。

(委員)

農協でも、行政と連携しながらトレーニングファームを整備して、産直市場に出荷できる生産者の育成を行っています。農協は販売がメインということになりますが、生産する農家を行政と一緒に育成することで民有農地面積の減少を抑えられると思いますので、協力して取り組みたいと思います。

(事務局)

人材を育成して農業を続けていく環境を維持していくことが重要であると思います。環境計画の中で、農業は緑地としてのテーマと気候変動適応としてのテーマの2つがあると考えます。そうした内容を環境目標として位置づけるのか、施策のレベルで記載していくのかについては、次回の審議会でご提案したいと思います。

(委員)

豊川市の脱炭素化をはじめとした環境の取り組みは遅れています。5年前の計画策定時の審議会でも、低炭素から脱炭素に変更するよう意見をしましたが、低炭素のままとなり、今になってゼロカーボンシティ宣言をされている状況です。ごみの分別がされていないことや1人1日あたりのごみの排出量が愛知県でもワースト2になっています。

2030年の目標達成に向けた取り組みの方向性だけでなく、2050年のカーボンニュートラルに向けた取り組みの方向性についても示していただきたい。

市域からの排出量のほとんどが製造業の事業活動によるものです。家庭部門や運輸部門、業務部門については審議会でも議論しても、あまり大きな削減が見込めません。事業者には大きな削減を求めても難しい中で、事業者が行政が何をやるのかを、計画の見直しに盛り込んでいかないと、まったく意味のないものとなります。

排出量の推移の棒グラフが減少しているのは、人口の減少や産業構造が変わったということが大きいです。家庭部門の排出量については、行政や市民の努力以上に人口の増減によるところが大きいです。

(事務局)

人口や経済活動の規模が小さくなることは脱炭素の観点からはよいことになりますが、まちづくりの観点からはそうではないといったところがあります。計画の中では脱炭素だけでなく、まちの活性化をどのように両立させるのかを考慮して計画の内容を記載したいと思います。

(委員)

次世代自動車についても、EVが脱炭素に有効であるという議論がありませんので、それ自体を見直さないといけないと思います。電気自動車の電気が化石燃料から作られている以上、脱炭素にはなりません。加えて電気自動車を製造することによる環境負荷についても考える必要があります。

(事務局)

製造時の二酸化炭素排出量や現状普及が進んできて問題なども聞かれるようになった中で、どこまで次世代自動車の普及を推進するのかについては、検討して、今後も協議させていただきたいと思います。

(委員)

資料 1 の 1 ページ目のカーボンニュートラルの考え方で、カーボンオフセットの考え方が記載されていますが、本市においても森林吸収がどれだけ期待できるのかについて計算する必要があります。本市は海がないので、ブルーカーボンによる二酸化炭素吸収が期待できないので、あまり大きな吸収効果がないとは思いますが、樹木の植え替えなどがないと吸収が期待できないので、ぜひ CO2 をどれだけ吸収するのかについて計画に盛り込んでいただきたい。

行政がどこまで何をするのかについて、本気度を示していただかないと意味のないものになりますので、予算や実行可能性を含めて、庁内で検討していただきたい。次回の審議会では、そうした内容を示していただきたい。

(事務局)

現状では課題の認識までしか検討できていませんので、次回の審議会では行政のスタンスも含めて、どのような取り組みを行っていくのかを提案したいと思います。改定計画の第 6 章の中で、地域脱炭素ロードマップを新たに記載していくということがあります。このロードマップに行政としてこういった取り組みを行っていくかについて記載したいと考えています。

(会長)

近年の排出量の減少は、新型コロナウイルスによる影響を多分に受けていると考えられます。そのため、近年の減少トレンドをそのまま将来の排出量の予測に用いることは疑問があります。その点については再検討いただきたくとよいと思います。

(事務局)

現時点のグラフはあくまでもこれまでの推移であり、近年の減少に新型コロナウイルスが大きく影響しているということはおっしゃる通りだと思います。これから、これまでの推移だけでなく、国や県の施策などを踏まえてどれだけの削減が期待されるのかについて推計したいと思います。

(委員)

先ほどの発言について、基本計画だけでなく従来の実施計画についても示すということになると感じました。そもそも、中間見直しの中では実施計画の内容まで触れるものなのではないでしょうか。この計画見直しの位置づけはどういったものになるのでしょうか。

(事務局)

現在、豊川市では環境基本計画とその実施計画の2つで取り組みを進めています。
今回の環境基本計画の見直しでは、実施計画の内容は別で議論するものであると考えていますが、そうした点についても議論させていただきたいと思います。

(委員)

森林面積の数字が変わっていなければよいということではないと思う。肝心なのはこういった森林があるかといったことやこういった管理がされているかといったことだと思います。例えば農道の整備状況や間伐がきちんに行われているかといったことが重要だと思います。また、間伐がされていない細い樹木だけでは、森林の保水力が低いといった問題があり、土砂災害の問題などもあると思います。こうした点を踏まえていただけるとよいと思います。

(事務局)

現行計画の策定時点では、どこにこういった森林があるのかわからないといった状況にあったため、仕方なく森林面積を指標としたということだと思います。おっしゃられる通り、森林面積の数字だけを議論すると、肝心な点を見落とした評価となりますので、検討していきたいと思います。

(委員)

子どもの好奇心というのは、計り知れないものがあります。夏休みの読書感想文で、子どもが「さようなら プラスチック・ストロー」という本を読みたいと言っていました。プラスチックストローも出てきた当時は画期的でしたが、自然分解されないといったことが近年問題視されているという内容です。例えば、小学校で子どもにマイストローを配ってみて、どこかに出かけた時にも、プラスチックストローはいりませんといえるようなことから始めていく、子どもでもできるような取り組みを進めていくとよいのではないかと思います。

(事務局)

お子さんから、保護者の方に伝えたり、子どもと一緒に教育を行ったりすることは重要だと思いますので、子どもを通じた保護者への教育についても検討したいと思います。

(委員)

一時期、ISO14001が話題になり、事業所の環境に関する取り組みが行われていたという記憶がありますが、今はあまり聞かなくなっています。豊川市の事業所におけるISO14001の導入は、導入できる事業所は導入して、これ以上は進まないという状況なのでしょうか。

(事務局)

ISO14001 については労務や経費の負担が大きいため、近年では、中小企業などで、

ISO14001 を廃止し、環境省の「エコアクション 21」などの、より簡易な環境マネジメントシステムに切り替えることが多くなっています。

(委員)

企業は、今は一番求められるのはカーボンニュートラルで、愛知県ではトヨタ自動車の関連企業などを中心として、再生可能エネルギーをこれだけ活用するといった目標が示されています。カーボンニュートラルが重視される中で、ISO14000 があまり目立たなくなったのではないかと思います。

7/7にイベントをイオンで行ったときに、主な参加者である主婦の方々にアンケートをしましたが、カーボンニュートラルについては内容をよく理解していないということがわかりました。

子どもへの教育はもちろん重要ですが、環境問題を知らない人に対して、なぜその取り組みが重要なのかを啓発する機会を増やさないと、市全体が盛り上がらないと思います。

(委員)

ある規模以上の事業所になると、二酸化炭素の削減目標や削減に向けた計画を必ず公表していると思います。まずは、大きい企業の削減目標を調べれば、削減量が見えてくると思います。その内容に対して行政がどれだけ支援できるのかを計画に示すことまでしないといけません。

(委員)

アンケートの回収率があまり高くないものとなっていますので、アンケートの精度はどのように考えたほうが良いのではないのでしょうか。

市民意識調査での公共交通機関の満足度などを指標としていますが、目標値の設定をどのように考えて、この数値にされたのでしょうか。

ISO14001は現状では、あまり役に立っていないのではないかと思います。早い段階でISO14001の認証を受けたところは、環境の取り組みが怠慢になっているのではないかという懸念があります。

(委員)

日ごろから、子ども向けの環境問題の紙芝居を行っていますが、時代が変わってきて、訴えることも変わってきている中で、勉強して紙芝居を作り直さないといけないと思います。

(委員)

学校給食の牛乳が瓶から紙パックに変わり、紙パックについても回収をしようと考えたのですが、いろいろな事情で学校での資源回収ができない状況です。学校での環境教育を通じて子どもにいろいろなことを考えさせることができればよいと思います。

主婦の方はなかなか勉強できないという中で、子どもを通して伝えることも重要だと思いますので、新しい環境教育をできればよいと思いますので、教育委員会に戻った時に提案したい

と思います。

(会長)

最近は、テレビを見たり、新聞を読んだりする人が減り、スマホなどで情報を得る人が増えています。そうした中で、どのように環境問題について情報提供や啓発を行っていくのかを考えることが重要です。スマホを通じて市の広報などをうまく伝達できるとよいのですが。

みなさん、他に意見はございませんか。もし、ご意見、ご質問等がありましたら、後日事務局へメールや書面で提出をお願いします。

意見はないようですので、議題の豊川市環境基本計画2020の中間見直しについて、方針を決定してよろしいですか。

それでは、以上、方針決定をいたしましたので、審議を終わります。本日予定されていた議題はすべて終了といたします。ご協力ありがとうございました。以降の進行については、事務局にお返しいたします。

(事務局)

会長、議事の進行をありがとうございました。最後になりますが、次第3のその他について事務局から1点連絡させていただきます。

次回の第2回豊川市環境審議会は9月26日(木)の午後1時30分から、場所は今回と同じ議会協議会室となります。

以上ですが、ご質問等がないようでしたら、令和6年度第1回豊川市環境審議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

会議終了